

與美津枚坂神代紀不、泉津平坂此云余母都比羅佐可古事記不、
 豫母都志許賣ふどつる母字も、この古音ふて書りて、其證も万
 葉五ふ人皆之と云、を比等母稱能とつるを見れば、初與美と
 と出雲国の地名ふて同国風土記不、夜見島とも蘇島とも書き、
 上代の湖水を中みして、意字郡嶋根郡よ、伯耆国西北の海邊
 へ亘り、弘夜見と云、りむ古事記不所謂黄泉比良坂者、今謂出
 雲国之伊賦夜坂也とつり、其も神名式不、同国意字郡揖夜神社
 見、其地を土人も、揖夜と呼ぶらへり、紀記不此夜見を、黄泉不
 當て書けるり、遂ふ地中不、一世界なりと云、或も月界を云ふ
 どの、妄説を作し云ふふ至と云、此ことくもしく云、はかしらば
 ど、大夜詞ある根、国下ふ、かつく注し、紀記の標注不、細ふ、志は

しむけむ、美ふを略○所思食スも、所思食も、の延たふふ○
 心惡子も、火神の御荒ひを惡とほして、然宜へり○返坐成り、與
 美津枚坂、其あり○水神神代紀不、且終之間、臥生土、神埴山、姫
 及水神、罔象女記不、於尿成神、名彌都波能賣神とつり○龍和名
 抄不、杓、斟水器也、和名比佐古、龍和名奈利比佐古とあるを、後不
 とサクと云、檜尺と書けるり、俗字ふり○川菜和名抄不、水苔一
 名河苔、和名加波奈とつり、といふは、物あらむ、青苔の如きも
 の、水中不、りて是あるべし、火を防ふ、此川菜と用る状へ、割竹を
 簀不、編み、是、川菜を編籠て、軒不、垂おひ、水と漑、生返りて、火を
 避る、不、妙あり、常不、和布又水雲等と、編込たるを見たり○埴山
 姫と、御名を、つらもしく、是も、徒土を云、埴とも、練ると、は
 土ふて、目張おして、火を防ぐ為、あり○四種物へ、水龍埴川菜ふ

壺を、壺山姫の、掌、ゆも、此、ふて、素、う、御、靈、へ、水、と、土、と、不、坐、是、
 べ、如、此、の、傳、
 たる、を、り

此能心惡子乃心荒波比曾水神壺埴

山姫川菜乎持氏鎮奉止禮事教悟給

支依此氏稱辭竟奉者皇御孫命能

朝廷尔御心一速比給波志止為氏

進物波明妙照妙和妙荒妙五色物

乎備奉氏青海原尔住物者鰭廣物

鰭狹物奥津海菜邊津海菜尔至氏

尔御酒者砥邊高知砥腹滿雙氏和

稻荒稻尔至尔氏如横山置高成氏

天津祝詞乃大祝詞事以氏稱辭竟

奉^{マツラ} 止^ト 久^ク 申^{マラス}

心荒^此波^此曾^此この曾^此字^此も、スともセともよむべし、古音なりとむ荒^此び
曾^此波^此とよむべし○事教悟給の事ハ、上ハ四種の物を以て、火^此ヒ
防^此ぐ狀^此を、教^此給^此へる事あり○御心一速^此比^此え、火^此神^此の御荒^此印^此を云^此
一速^此ハ、まはどと意^此ふて、欽^此明^此紀^此ハ浦^此神^此嚴^此忌^此人^此、不^此敢^此近^此、伊^此勢^此物^此語^此
ふ、むかし人^此才^此かく、い^此ち^此を^此や^此さ^此み^此や^此ひ^此を^此あ^此ん^此あ^此り^此る、倭^此姫^此世^此記^此
に、阿^此佐^此賀^此乃^此彌^此乎^此尔^此坐^此而^此伊^此豆^此速^此布^此留^此神^此百^此往^此人^此者^此五^此十^此人^此取^此死^此云^此
々^此と^此行^此る、伊^此豆^此速^此布^此留^此を、稜^此威^此速^此振^此ふて、全^此一^此速^此比^此と^此同^此語^此あ^此る^此を、
考^此ふ稜^此威^此と^此濁^此音^此あ^此る^此と^此れ^此も^此ひ^此て、一^此字^此を^此假^此た^此る^此を、答^此め^此た^此る^此を、
中^此々^此ふ^此あ^此
や^此ま^此ま^此り

祝詞辨蒙卷之三終

111
合 3
267

